HERE COMES THE DREAM!

HERE COMES THE DREAM!

今回の旅で出会い、カットした人々
Thank you!!

and more…

HERE COMES THE DREAM!

by MOK

LA～サンディエゴ
MOKによる5日間のキャンピングカー日記

「旅」をコンセプトに続いてきたMOKとの企画も5年目を迎える。
今回、誌面とは別で、ヘアサロンMOKのスタッフによる旅日記をご紹介。
撮影の裏側はもちろん、思い出の数々をお届けします。

Text_Shinya Hayashi、Hiroto Imai

HERE COMES THE DREAM!

by MOK

最後に

今回たくさんの人と出会い、いろんな価値観に出会いいっぱい元気を頂けました。カジカジヘアさんと紙面を作っていくことは刺激がいっぱいで刺激フェチになりそうです。
皆さんよく働き、よく食べ、よく飲み、よく語る。そんなパワーある人ばっかりだったのでいつも何かが起こる。なんだかんだありましたが帰ってきて思い返すとニヤリとする事ばかりで楽しかったし良い経験させていただきました。多謝。

いつもこの企画は普段では味わえない特別な経験をさせてもらっていると感じます。知らない場所へ行き知らない人の髪を切らせてもらう時カットが心を通わせる手助けをしてくれます。話をするきっかけをくれます。髪を切る事で近く感じる事ができるのはどこへ行っても同じなので改めて美容師ってなかなかいい仕事だなぁと思い直させてもらえます。

これからも旅を通して、美容師としてたくさんの笑顔を生み出せる仕事をしている事に誇りを持って日常に戻りたいと思います。
非日常の世界で面白い価値観を吸収して帰ってお客様に伝えていけたらいいなぁと思いました。本当にありがとうございました。

MOK　オーナー　林 真哉

HERE COMES THE DREAM!

by MOK

最後に

今回の旅ですごく大事だなと思ったのが言葉でした。日本では当たり前のようにコミュニケーションがとれて、相手の考え、自分の考えってのを共有したり、伝えたりするってのはそれほど難しい事じゃないと思うんですけど、一歩、日本から外に出てみるとどれだけ難しいか痛感しました。

今回、カリフォルニアの旅でブラジル人の男性を切らせてもらったのですが、日本語も通じない、英語も通じない、そんな中で一つのスタイルを作らせてもらったんですけど、その時に仕上がりを見たブラジル人の方がすごい喜んでくれて、矛盾しちゃうんですけど、言葉が通じなくてもコミュニケーションはとれるんだと思いました。でも、もし、僕がちょっとでもポルトガル語を話せたならもっとスタイルを含め、お互いにもっと満足のできる形になったんじゃないかなって思います。考えだすとキリがないですし、いつ、どこで、どんな国の方と出会うかもわからないですけど今回、言葉の重要さを再認識させられました。自分の中の引き出し。
もっと、もっと、増やしていけたらなと深く感じた旅でした。

MOK アシスタント 今井ヒロト

HERE COMES THE DREAM!

おまけ（MOK 林）

「嗚呼MB（前歯）思い起こせば、、私は小学校6年生の時前歯を失った。掃除の時間、なんとなくサボっていた自分に罪悪感が芽生えた時だ。終了のチャイムと共に先生が見回りに来る事を知っていた私は「今までもこれからも一生懸命な林です。」ということをアピールしようと懸命に雑巾がけを張り切ったのだ。なんでも張り切りすぎは空回りを生む。その時も一休さんが驚くほどのスピードで雑巾がけをしていて自分の雑巾を自らの大きな一歩により踏み込んでしまった。時の流れはスローになり私は顔面ごと地面に叩きつけられ、見事な折れっぷりで前歯を2本失ったのだ。私と同じ真面目な小学生は気をつけて欲しい。

時は流れ大人になってから大人の歯に成長したタイミングで私の歯は素人目にはわからない程の立派な差し歯を手に入れた。そんな立派な差し歯で余裕を持て余すほどのテンションを抱きかかえ今回のカリフォルニア。悲劇が起きたのはカリフォルニア3日目の夜だった。

翌日のカットさせてもらえるサーファーとの約束も取り付け、上機嫌でお酒を飲んだ後、ヒロトが素敵なプールがあったから泳いでくると言い出した。私は名越さん（カメラマンさん）と海を見に行こうと言っていたが、その前にヒロトの様子を見に行こうという事になりプールへ向かった。プールは映画に出てくるような素敵なプールでPARADISEと言う名だった。ご存知だろうが意味を調べると「悩みや苦しみのない楽しい世界」とでてくる。そんなパラダイスでヒロトは何の悩みも苦しみもなく奇声を発しながら泳いでいた。あまりにも楽しそうなので私達もプールに飛び込んだり潜ったりして遊んだ。そうしているうちにヒロトが「このプール距離なさそうに見えて潜水では端から端までなかなか行けないですよ!」と言う。「そんな訳無いだろう!」と潜水チャレンジタイムが始まった。早速潜水してみると確かに息が続かない。お酒のせいなのか年齢のせいなのかカリフォルニアのせいなのか…。ちょびっと悔しくなった。そんな時、名越さんが「いけたー!」とパラダイス潜水を制覇。「わーー!」と歓声をあげ、すごいすごいとテンションが上がった。お酒とカリフォルニアのせいだろう。私も絶対パラダイスを制覇したいと二度目のチャレンジ。順調に進んだが息が続かなくなってきた。しかし私は知っていた。これは後5メートル位の苦しさだと。もうひと我慢してみんなから「やいのやいの」と喝采を受けようと、もうひと踏ん張り水を掻いた瞬間壁がそこにあった。そして私の顔面はためらいもなく壁にぶつかり「いてててて」と水面から顔を上げると名越さんが「林さん、歯、歯がぁ」と笑いを前面に出して指をさしている。「えっ!」私は恐る恐る唇に触れてみると「歯がない!」。憧れのカリフォルニアで歯がない!動揺と後悔で水面を叩きながらショックを表現していると「歯拾わないと。」と名越さん。ヒロトと名越さんは笑顔が固まったままの状態で潜って私の歯を拾おうとしてくれた。感謝。しかしなかなか水中では見えないのだ。「僕取ってきます!」と私は歯の救出へ向かった。酔っていたのかカリフォルニアのせいなのか深さの感覚も分からぬまま思いっきり潜る。
するともう一度衝撃が走った。今度はプール底にまたしても顔面を叩きつけ「いててて」と水面から顔を上げると「林さん、歯、歯、2本～～!」私は動揺と後悔で震えた。その後みんなに拾ってもらった歯2本を握りしめジャグジーに浸かりながらカリフォルニアの夜空を見上げた。そうここはパラダイス。悩みや苦しみのない楽しい世界。その晩誰よりも口数が少なく、誰よりも早く布団に潜った。翌日からみんなは愛を持って歯のことをいじっくれ、私は元気を取り戻した。みんなは「林さん歯無い方がいいんじゃない!」などと言ってくれなぜか一瞬「そうかも!」と思ってしまった。
“カリフォルニアのせいである”
“カリフォルニアはそんな気分にさせてくれる不思議な場所でもある”

MOK オーナー　林 真也

旅のはじまり（MOK 林）

「わっしょいわっしょい」私の心は祭りへ向かう子供のように弾んでいた。なんといってもカリフォルニアの青空のもとカットできるって素敵すぎる!「遊びじゃないぞ!」と強くスタッフに言うその口角は自然と上がる。私は気持ちが緩んでいたのかもしれない。そんな私に試練はすごいスピードで近寄ってきた。空港で「エスタは準備されてますよね?」とお姉さんが私の目を真っ直ぐ見据えて告白するようなテンションで聞いてきた。「なんの事でしょう?」。お姉さんの表情はとても解りやすく曇った。そしてヒソヒソとスタッフ内での相談が始まった。私は祭りに向かう途中ヤンキーに絡まれた子供のように目を泳がせた。私達はエスタというアメリカ入国に必要なビザを誰一人持っていなかった。チェックインまでの時間にエスタが受理されるのか…。「やばいよ」という言葉を5000回くらいつぶやきながらひたすらパソコンに向かいあってフライト1時間前になんとかビザを取得する事が出来た。いつも何かは起こるのが私達の旅だが今回はピンチが早い。機内に乗り込むと私はワインをいただき、すぐに眠った。リンボーダンスのスタイルで目が覚めた時にはあと1時間で着陸という時だった。もちろん腰はクルミのように硬い。しかしロスに着くと高揚感が勝ち、そんな痛みも忘れていた。空港でカメラマンの名越さん、コーディネーターのアキラさんと合流して今回の旅日程をアメリカっぽく軽めに説明してもらった。「まあ行ってみないとどんな人が切らせてくれるのかわからないしね。でも僕はツキがあるから大丈夫だよ。」とアキラさん。なんか落ち着くなぁと感じながらその晩、ハンバーガーとお酒を手に今回のテーマなどを再確認してあっという間に夜は更け、私たちの旅は静かに幕を開けた。

海外でヘアカット（MOK 林）

私たちが海外でカットさせてもらっているのは現地で働きながらカットしている人達とは大きく違うように思う。何もしなければ何もはじまらないからだ。いきなり「切ってちょーだい」という人はやってこないがなんか面白そうな事やってるなぁと思われたら「私も切ってちょうだい」と人がやってくる。そしてまずはカットさせてもらえる人を探すところから始まる。「カッコイイ雑誌作るために日本から来たんだけど髪切らせてもらえませんか?」と話しかけてみたり。英語に疲れた時は「free cut」と黒板に書いて掲げながらひたすら練り歩く作戦に出たりした。苦笑いで断られる事もあるが面白い人にも会ったりする。「俺の髪も切ってくれ」とキャップをとり見事なスキンヘッドをカリフォルニアの日光に反射させながら大爆笑のおっちゃん。（アメリカンジョークとの遭遇）「何やってるの?」と子犬のように話しかけてくれる若者たち（理想的）。陽気なのは天気だけではなくそれに引っ張られるように人々も陽気だった。カットをするときはつたない英語で色々聞いてみる。国によって価値観の違いがとても興味深く面白い。言葉が出ずに会話に詰まってもヒロトが懸命にラーメンの話を繰り出してくれるのでなんだか上手くいった。どこの国でも髪を切る時は少しだけ非日常な空気に包まれる。カリフォルニアは特にそんな刺激を楽しむ文化と心のゆとりを持っている場所だと今回の旅で多く感じれたように思う。笑顔のために髪を切るというテーマがMOKにはある。笑顔に似合うデザインを考えながら髪を切らせてもらうのだがなんだかんだ一番笑顔になれるのは私達かもしれない。

キャンピングカーでの生活（MOK ヒロト）

キャンピングカーでの生活ってどんなイメージですか?　物騒なんじゃない?ちゃんと寝れるの?　たぶん、ほとんどの人がそういうイメージを持ち、ましてや、日本じゃないアメリカの地でキャンピングカーでの生活だなんて…。でも、僕はこう思います。
アメリカだからこそ、キャンピングカーでの生活を。5日間のキャンピングカーでの旅は思ったよりも快適でした。

朝、外でみんなで飲む珈琲は格別に美味く、買い出しで行くスーパーは日本で見た事もない物で溢れかえり。キャンピングカーで生活する方達との交流。

夜は、外で食卓をみんなで囲んで夜な夜な熱い話で盛り上がったり。ベッドは自分ん家のベッドよりふかふかだったり。7人での共同生活はこのカリフォルニアの旅ではかけがえのない物になってました。モーテルやホテルでは味わえない経験をキャンピングカー生活が経験させてくれたなと思ってます。

カリフォルニアの魅力（MOK 今井）

今回、僕は初めてのアメリカだったのですが、初めての人も長年住んでいる人も誰もが楽しく暮らせる。そこが一番のカリフォルニアの魅力だったんじゃないかなって思います。僕がすごい印象的に残ってるのが、本誌の2ページ目に出てきたサン・オノフル・ステート・ビーチで20年ぶりのRVバケーション同窓会をしていた大先輩方です。（勝手に大先輩と呼ばせてもらってます）日本で20年ぶりの同窓会をキャンピングカーでしようと思いますか!?　恐らく、日本だと夢のままで終わってしまうんだろうなと思います。夢は実現する!!　と、教えてくれたのが今回の旅であり、カリフォルニアで出会い、髪を切らせてもらった人達なんです。
まさしくDREAM BIG。誰もが持っている夢をリアルに変える力。忘れやすく、歳を重ねるごとに弱くなっていくその力をいつまでも忘れてはダメなんだなと感じた旅でした。